

●第2次いわき市自殺対策計画（案）における施策の方向性

※赤字は、前回会議にて変更について了承を得た箇所。 黄色箇所は今回新たに追記・修正箇所

第1次 いわき市自殺対策計画		
【基本施策】自殺対策を進める上で最低限必要な施策		
基本施策1	地域におけるネットワークの強化	①「いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会」の設置・開催 ②個別の支援団体との連携強化及び自殺関連活動の実施支援 ③心を通わせ合える人間関係・地域社会の構築支援
基本施策2	自殺対策を支える人材の育成	①様々な職種を対象とする研修の実施 ②一般市民に対する研修
基本施策3	市民・企業等への啓発と周知	①市の自殺対策計画の周知 ②多様な手段を活用した情報発信の推進 ③市民向け講演会・イベント等の開催 ④就労者のメンタルケアと自殺予防の推進 ⑤新たな発信手法の検討
基本施策4	生きることの促進要因への支援	①自殺リスクを抱える可能性のある市民の支援 ②自殺未遂者等への支援 ③遺族等への支援 ④被災者・避難者への支援
基本施策5	子ども・若者の命を大事にする意識の向上に向けた教育	・SOSの出し方に関する教育の実施 ・若者向け講演会の開催

第2次 いわき市自殺対策計画			関連する国の重点施策 【自殺総合対策大綱】
基本施策	主な取組等	方向性の考え方	【自殺総合対策における当面の重点施策】
基本施策1	地域におけるネットワークの強化	①「いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会」の開催 ②個別の支援団体との連携強化及び自殺関連活動の実施支援 ③心を通わせ合える人間関係・地域社会の構築支援	10 民間団体との連携を強化する
基本施策2	自殺対策を支える人材の育成	①様々な職種を対象とする研修の実施 ②一般市民に対する研修 ③自殺対策従事者等支援者への支援	4 自殺対策に関わる人材の確保、養成及び資質の向上を図る
基本施策3	市民・企業等への啓発と周知	①こころの健康づくり、自殺に関する正しい知識の普及啓発 ②多様な手段を活用した情報発信の推進 ③就労者のメンタルケアと自殺予防の推進	2 国民一人ひとりの気付きと見守りを促す
基本施策4	生きることの促進要因への支援	①自殺リスクを抱える可能性のある市民の支援 ②自殺未遂者等への支援 ③遺族等への支援 ④被災者・避難者への支援 ⑤女性の自殺対策の推進	5 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する 7 社会全体の自殺リスクを低下させる 8 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ 9 遺された人への支援を充実する 13 女性の自殺対策を更に推進する（新規） ・妊産婦への支援の充実 ・コロナ禍で顕在化した課題を踏まえた女性支援 ・困難な問題を抱える女性への支援
基本施策5	子ども・若者の命を大事にする意識の向上に向けた教育	①SOSの出し方に関する教育の推進 ②子ども・若者への支援の充実	6 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする 11 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

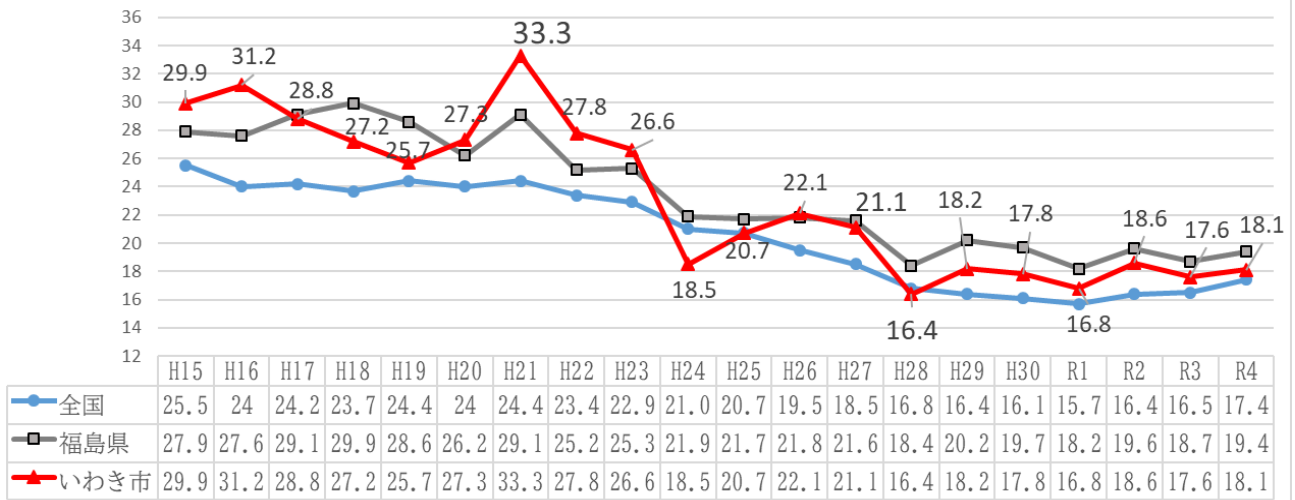
第1次 いわき市自殺対策計画		
【重点施策】いわき市の自殺の現状から優先されるべき対象		
重点施策1	高齢者を対象とした自殺対策の推進	
重点施策2	働き盛りの世代の男性を対象とした自殺対策の推進	①就労者のメンタルヘルスケア ②無職者（生活困窮者）への支援
重点施策3	20歳未満の若者を対象とした自殺対策の推進	

第2次 いわき市自殺対策計画			関連する国の重点施策 【自殺総合対策における当面の重点施策】
重点施策	主な取組等	方向性の考え方	
重点施策1	【継続】 高齢者を対象とした自殺対策の推進	①包括的な支援のための連携の推進 ②地域における要介護者に対する支援 ③高齢者の健康不安に対する支援 ④高齢者の社会参加の促進と孤独・孤立の予防	5 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する。 6 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
重点施策2	【継続拡充】 生活困窮者を対象とした自殺対策の推進	①相談支援、人材育成の推進 ②居場所づくりや生活支援の充実 ③生活困窮者・失業者対策と自殺対策の連動	7 社会全体の自殺リスクを低下させる
重点施策3	【継続拡充】 就労者を対象とした自殺対策の推進	①職場におけるメンタルヘルス対策の推進 ②ハラスメント対策等の推進・長時間労働の是正	12 勤務問題による自殺対策を更に推進する

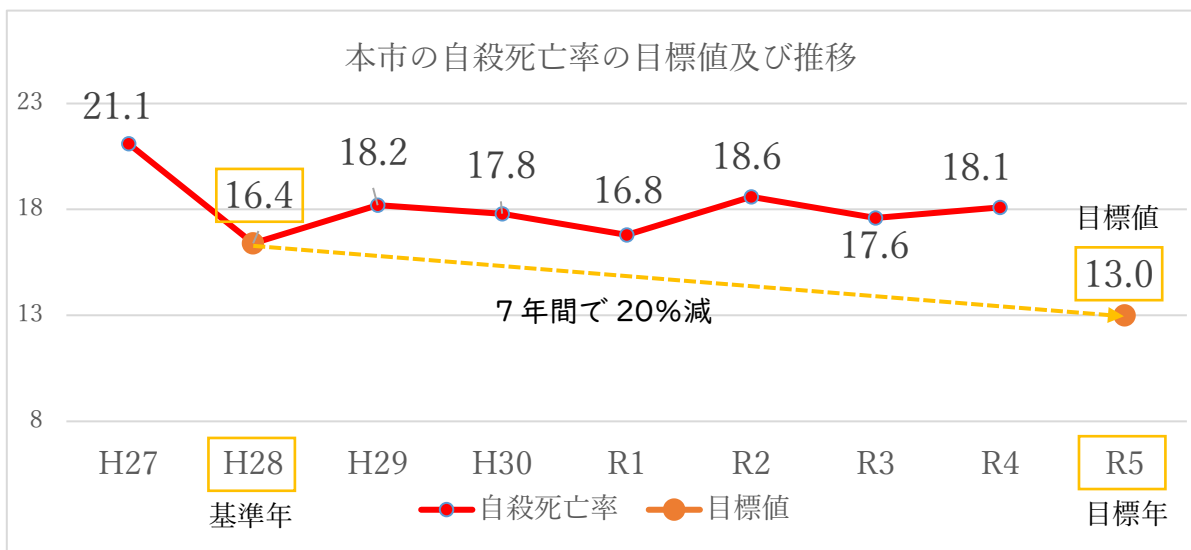
第2次自殺対策計画 自殺死亡率・自殺者数の目標設定案

1. 自殺死亡率の推移

国・県・市自殺死亡率（人口10万人対）【厚労省：人口動態統計】



2. 現行計画の目標に対する評価



- ◇ H28年を基準値とし、計画期間最終年R5年までに自殺死亡率を20%減少させる
- ◇ 令和5年までに自殺死亡率13.0以下を目標としてきたが、目標を下回る予測

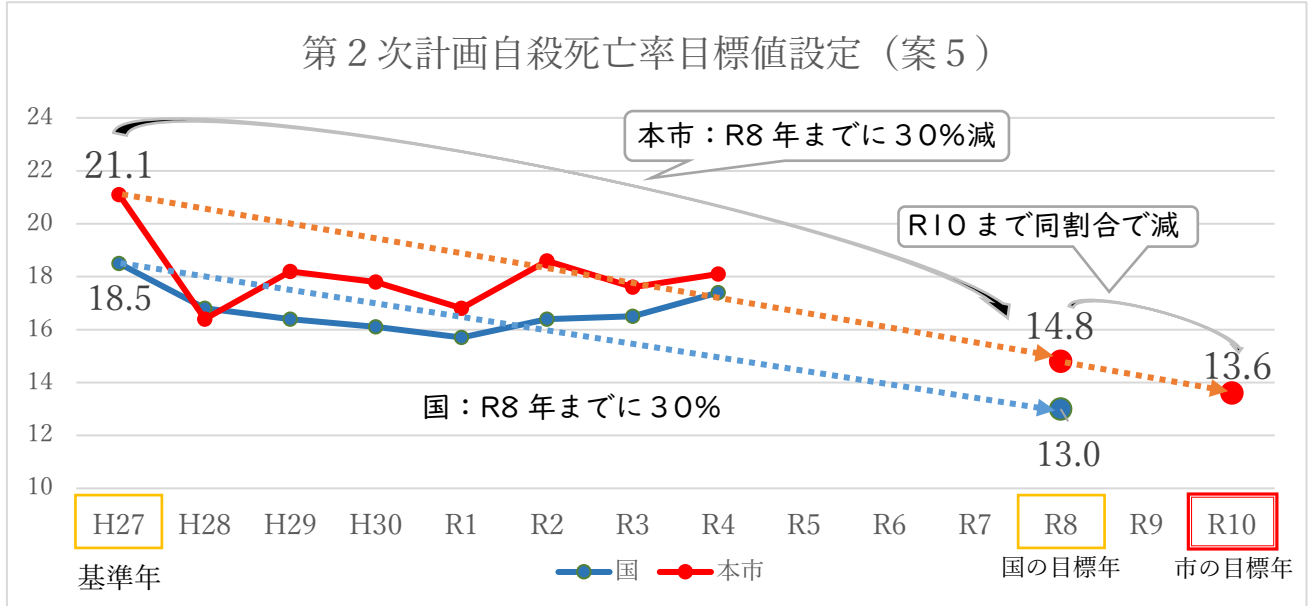
3. 国・県の現行計画における目標値設定状況

	基準年	基準値	減少率目標	目標年	自殺死亡率目標	R4 現状値
国	H27年	18.5	基準値から30%減	R8年	13.0以下	17.4
県	H27年	21.6	基準値から20%減	R8年	17.3以下	19.4
市	H28年	16.4	基準値から20%減	R5年	13.0以下	18.1

4. 次期計画の目標値設定案

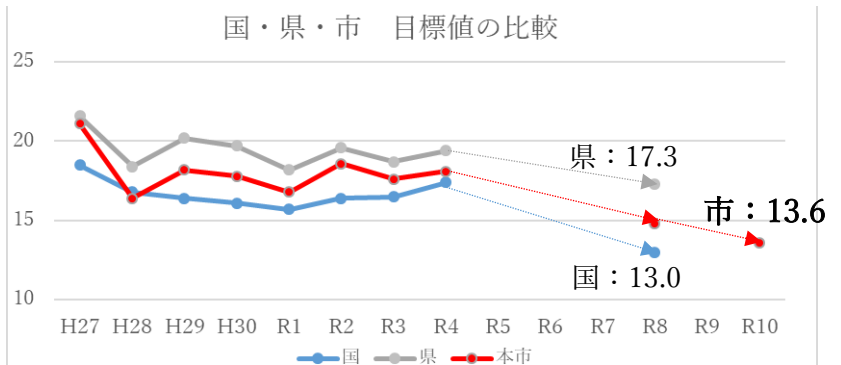
	設定の考え方	基準値 (年)	減少率目標	目標年度	自殺死亡率 目標	自殺者数 目標
案1	ほぼ国準拠	16.4 (H28)	基準値から 30%減	R10年	11.5	34人以下
案2		21.1 (H27)			14.8	44人以下
案3	ほぼ県準拠	16.4 (H28)	基準値から 20%減		13.1	39人以下
案4		21.1 (H27)			16.9	50人以下
案5	国準拠（厳密）	21.1 (H27)	基準値から R8年までに 30%減 以降目標年まで同割合 で減少すると想定		13.6	41人以下
案6	県準拠（厳密）	21.1 (H27)	基準値から R8年までに 20%減 以降目標年まで同割合 で減少すると想定		16.1	48人以下

【案5の目標設定の考え】



【目標設定について】

現行計画において、目標値を下回る結果となっていることから、改めて国の目標設定に準拠する形で目標を設定することを提案。



第2次 自殺対策計画 基本施策における目標値の設定について (案)

資料3

基本施策	評価指標	基準値	第1次計画での目標値	実績値	評価	第2次計画目標値(案)	目標値設定の理由	国	県	福島市	郡山市	
		H29年度	R5年度	R4年度		R10年度		R8	R8	R5	R7	
1 地域におけるネットワークの強化	(1)いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会の開催	-	1回以上	2回	達成	2回/年度	現行計画の目標踏襲	-	自殺対策推進協議会 2回 (各保健福祉事務所 1回)	2回以上	6回	
	(2)いわき市自殺予防対策庁内連絡会の開催	1回	1回以上	2回	達成	2回/年度	現行計画の目標踏襲	-	-	1回以上	2回	
2 自殺対策を支える人材の育成	(1)ゲートキーパー養成講座 受講者数	334名 (累計)	534名 (累計)	799名 (累計)	達成	200人以上/年 (累計1,799人)	H21年から養成講座を開始し、14年間で799人(平均57人/年)内R1年から対象を拡大し広く市民に講座を実施し、直近のR4年の実績値は単年112人であったことから、年間200人以上を目標に設定した。	-	1,000人以上	市民向けセミナー開催 1回以上	400人	
	(2)ゲートキーパー研修受講者のうち、「自殺対策の理解が深まった」と回答した人の割合(%) (ゲートキーパー研修受講時アンケート)	90.0%	100%	100%	達成	100%	現行計画の目標は達成しており、また、現在の指標は、ゲートキーパー研修受講者のみの限局した指標となっていることから、次期計画においては、目標指標から除外。	-	-	70%以上	-	
	(2)「自殺対策支援者向け支援研修」の開催回数	-	-	1回	-	1回以上/年度	新たに、自殺対策を支える人材の育成において、「自殺対策従事者等支援者への支援」を新たに計画に追加する考えであることから、「支援者支援向け研修」の開催回数を目標指標に設定。	-	-	-	-	
3 市民・企業等への啓発と周知	(1)電話・来所・文書等による相談件数(延件数/年)	①うつ関係	157件	200件	460件	達成	-	自殺リスク者への個別支援については、R5年6月厚生労働省発行の『「地域自殺対策計画」策定・見直しの手引』において、支援件数や参加者数等の量的な数値で評価することは必ずしも適切ではないと示されていることから、次期計画においては、目標指標から除外。	-	相談件数の増加	-	3,400人
		②自殺関係	86件	110件	108件	未達成	-		-		-	
	(第2次計画より追加)自殺対策強化月間における啓発事業の実施	-	-	2回	-	2回/年度 (9月・3月)	自殺総合対策策大綱において、自殺対策強化月間等を3人に2人以上聞いたことがあるようにすることを目標としていることから、啓発事業を年2回実施することを目標値として設定。	-	実施	1回以上	-	
	(2)自殺対策の取組の認知度(健康いわき21アンケート)	①相談窓口の認知度	33.0%	50%	33.9%	未達成	50%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	3人に 2人以上	-	-	-
②「ゲートキーパー」という言葉を知っている人の割合		16.8%	30%	11.2%	未達成	30%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	3人に 1人以上	-	-	-	
4 生きることへの促進要因への支援	(1)「健康である」「まあまあ健康である」と答える人の割合(健康いわき21アンケート)	79.0%	90%	76.6%	未達成	90%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	-	-	-	-	
	(2)この1年以内に「自殺したいと思った事がある」人の割合(健康いわき21アンケート)	4.1%	0%	4.4%	未達成	0%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	-	-	-	-	
5 子ども・若者の命を大事にする意識の向上に向けた教育	(1)若年層向け自殺予防講演会の受講者のうち、「SOSを出すことの必要性について理解できた」と回答した人の割合(%)	75.0%	85%	91.0%	達成	-	現行計画の目標は達成されていることから、指標を「SOSの出し方教室を実施する中学校・高校の割合」に変更。数値目標は国が示す、すべての児童生徒が、「SOSの出し方に関する教育」を年1回受けられるようにすることを目標としていることから、最終年度に100%を目指す	-	-	-	-	
	(1)SOSの出し方教室を実施する中学校・高校の割合(%)	-	-	32.0% (19/59校) 休校中学校除く	-	100%	すべての児童生徒が年1回受けられるようにする。	-	-	-	-	

第2次 自殺対策計画 基本施策における目標値の設定について (案)

資料3

基本施策	評価指標	基準値	第1次計画での目標値	実績値	評価	第2次計画目標値(案)	目標値設定の理由	国	県	福島市	郡山市	
		H29年度	R5年度	R4年度		R10年度		R8	R8	R5	R7	
1 地域におけるネットワークの強化	(1)いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会の開催	-	1回以上	2回	達成	2回/年度	現行計画の目標踏襲	-	自殺対策推進協議会 2回 (各保健福祉事務所 1回)	2回以上	6回	
	(2)いわき市自殺予防対策庁内連絡会の開催	1回	1回以上	2回	達成	2回/年度	現行計画の目標踏襲	-	-	1回以上	2回	
2 自殺対策を支える人材の育成	(1)ゲートキーパー養成講座 受講者数	334名 (累計)	534名 (累計)	799名 (累計)	達成	200人以上/年 (累計1,799人)	H21年から養成講座を開始し、14年間で799人(平均57人/年)内R1年から対象を拡大し広く市民に講座を実施し、直近のR4年の実績値は単年112人であったことから、年間200人以上を目標に設定した。	-	1,000人以上	市民向けセミナー開催 1回以上	400人	
	(2)ゲートキーパー研修受講者のうち、「自殺対策の理解が深まった」と回答した人の割合(%) (ゲートキーパー研修受講時アンケート)	90.0%	100%	100%	達成	100%	現行計画の目標は達成しており、また、現在の指標は、ゲートキーパー研修受講者のみの限局した指標となっていることから、次期計画においては、目標指標から除外。	-	-	70%以上	-	
	(2)「自殺対策支援者向け支援研修」の開催回数	-	-	1回	-	1回以上/年度	新たに、自殺対策を支える人材の育成において、「自殺対策従事者等支援者への支援」を新たに計画に追加する考えであることから、「支援者支援向け研修」の開催回数を目標指標に設定。	-	-	-	-	
3 市民・企業等への啓発と周知	(1)電話・来所・文書等による相談件数(延件数/年)	①うつ関係	157件	200件	460件	達成	-	自殺リスク者への個別支援については、R5年6月厚生労働省発行の『「地域自殺対策計画」策定・見直しの手引』において、支援件数や参加者数等の量的な数値で評価することは必ずしも適切ではないと示されていることから、次期計画においては、目標指標から除外。	-	相談件数の増加	-	3,400人
		②自殺関係	86件	110件	108件	未達成	-		-		-	
	(第2次計画より追加)自殺対策強化月間における啓発事業の実施	-	-	2回	-	2回/年度 (9月・3月)	自殺総合対策策大綱において、自殺対策強化月間等を3人に2人以上聞いたことがあるようにすることを目標としていることから、啓発事業を年2回実施することを目標値として設定。	-	実施	1回以上	-	
	(2)自殺対策の取組の認知度(健康いわき21アンケート)	①相談窓口の認知度	33.0%	50%	33.9%	未達成	50%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	3人に 2人以上	-	-	-
②「ゲートキーパー」という言葉を知っている人の割合		16.8%	30%	11.2%	未達成	30%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	3人に 1人以上	-	-	-	
4 生きることへの促進要因への支援	(1)「健康である」「まあまあ健康である」と答える人の割合(健康いわき21アンケート)	79.0%	90%	76.6%	未達成	90%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	-	-	-	-	
	(2)この1年以内に「自殺したいと思った事がある」人の割合(健康いわき21アンケート)	4.1%	0%	4.4%	未達成	0%	R4年度時点で未達成であることから、現行計画の目標踏襲	-	-	-	-	
5 子ども・若者の命を大事にする意識の向上に向けた教育	(1)若年層向け自殺予防講演会の受講者のうち、「SOSを出すことの必要性について理解できた」と回答した人の割合(%)	75.0%	85%	91.0%	達成	-	現行計画の目標は達成されていることから、指標を「SOSの出し方教室を実施する中学校・高校の割合」に変更。数値目標は国が示す、すべての児童生徒が、「SOSの出し方に関する教育」を年1回受けられるようにすることを目標としていることから、最終年度に100%を目指す	-	-	-	-	
	(1)SOSの出し方教室を実施する中学校・高校の割合(%)	-	-	32.0% (19/59校) 休校中学校除く	-	100%	すべての児童生徒が年1回受けられるようにする。	-	-	-	-	